

4段階評価	4：期待以上	3：ほぼ期待どおり	2：やや期待を下回る	1：改善を要する
-------	--------	-----------	------------	----------

学校経営 ビジョン	○ 子ども、先生、保護者地域 みんな幸せ栗須小
--------------	-------------------------

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	評価		学校関係者評価のコメント
			学校	関係者	
知育	重点目標 ○ 「学びたい」意欲をもって、主体的かつ積極的に学習し、 着実に学力を身に付けていく児童の育成	1について 2. 9 ○ 相互参観が年度後半に偏ったので、今後は年間通して計画したい。 ○ えんぴつの正しい持ち方は、継続して指導していく。	2.87	3.38	<ul style="list-style-type: none"> ・相互参観などにより、先生方の授業の進め方が共有され、「わかる・できる授業」につながっていると感じた。 ・体験活動等で見られる児童の主体的な行動から、日頃の指導の成果が表れていると思う。 ・子どもが「勉強がおもしろい」と話しており、考える力がついてきていると感じる。 ・友達と学び合う姿も見られ、対話的な学びが定着してきていると感じた。 ・鉛筆や箸の持ち方については、家庭での声掛けも含めて継続した指導をお願いしたい。 ・基本的な生活習慣と学習習慣のつながりを意識した指導も重要だと感じる。 ・家庭学習の定着には、家庭での環境づくりや親子でのルールづくりも大切だと思う。 ・共働き家庭も多い中で、無理のない形での家庭学習支援の工夫も必要だと感じる。 ・読書については、本をよく読んでおり、学校の取組の成果が家庭にも表れていると感じる。 ・100冊以上の貸出など、読書活動の成果は非常に素晴らしい。今後は感想を伝え合う活動にも期待したい。 ・好きな本に出会うことで読書量が増えている様子が見られ、環境づくりの重要性を感じた。 ・新聞については、地域の出来事を知るツールとして、より身近に感じられる工夫があるとよい。 ・ICTは今後さらに進むと思うので、AI活用なども視野に入れていく必要があると感じた。 ・タブレットの活用により、学び方の幅が広がっていると感じる。 ・ネット、スマホは便利だが、本は人間の本能で印象に残る。本のよさも取り入れつつ、ICTを活用していくことが大切。 ・地域人材を活用した学習は、子どもたちにとって貴重な経験であり、学校の強みだと思う。
	手段 1 授業の充実・改善・・・規律と活気があり「わかる・できる」授業 ※相互参観授業の日常化 2 ひなたの学び推進 3 家庭学習の徹底（宿題、読み声、日記） 4 読解力向上プロジェクトの全校的な取組の推進（「栗っこタイム」、「パワーアップタイム」） 5 読書の推進（「読み聞かせ」、図書館協力員との連携等） 6 新聞の活用 7 ICTの有効な日常活用 ～タブレットPC活用の充実 8 特別支援教育を意識した学習指導 9 地域人材の活用	2について 2. 7 ○ 「ひなたの学び」を実現する授業を、職員全体で意識していく。			
		3について 3. 3 ○ 家庭への啓発を続けているが、個に応じた家庭学習の取り寄せ方について課題があるため、タブレットパソコンの家庭での利用を視野に研究を続けていく。			
		4について 3. 2 ○ 基礎学力定着のために、計画通り時間を確保できた。取り組み内容や活用方法を職員で話し合い、より充実させていきたい。			
		5について 2. 7 ○ 学校図書館を利用した読書はできているが、家での読書習慣定着までには至っていない。家庭と連携した習慣作りを目指す。100冊以上貸出33名（200冊以上5名）			
		6について 2. 2 ○ 職員のみで回答で、全項目中最も低い。新聞活用について活用の仕方を協議中。新聞投稿は積極的に行い、現在10名が掲載。			
		7について 3. 0 ○ ICT活用については教員、児童共に使用スキルが高まっており、職員間でも活用について積極的に情報を共有している。			
		8について 3. 0 ○ 学習プリント採点、教材作り、ミシン学習補助、カーテン補修、ピアノ伴奏等、高い学習支援が実現できている。			
		9について 2. 9 ○ 地域人材の活用については、学年によって差はあるが、全校で米作りに取り組み、働く大人の姿を間近に見ることができている。			
	徳育	重点目標 ○ 自他のいのちやきまり、礼儀を尊重し、思いやりの態度を実践する児童の育成			
手段 1 児童理解の充実 2 自主・自発的な態度の育成（無言清掃・ボランティア活動推進） 3 家庭と連携した基本的習慣の形成（心のこもった挨拶、栗須小のきまり） 4 安全指導の徹底		2について 2. 8 ○ 縦割り清掃で、「縦の関わり合い」を意識した取組を行っている。きまりについては、「教えること」と「考えさせること」を児童の発達の段階に応じて指導していく。			
		3について 3. 1 ○ 進んであいさつができる児童が増えた。今後、笑顔で気持ちよくあいさつができる児童が増えるための日常指導を心がけていく。			
		4について 3. 4 ○ 児童の命と人権を最優先とした学校運営を実施してきたが、交通安全や学校で安全に過ごすことについて児童の意識が高まってきた。			

<p>5 人権教育の推進（いじめ・不登校に関する指導の充実）</p> <p>6 道徳教育の充実</p> <p>7 体験・体感活動を盛り込んだ豊かな心の育成</p>	<p>5について 3. 5</p> <p>○ いじめについては、認知解消率 100%を継続することができた。不登校については、保護者や関係諸機関と連携を取り、本人の気持ちに寄り添い、今後も解決への道を模索していく。不登校傾向の児童も数名おり、児童に応じた手立てで対応しているところである。</p> <p>6について 3. 3</p> <p>○ 道徳の時間、全校朝会、校外学習、福祉体験で差別や人権に関する内容を取り上げることによって、児童の人権感覚を高めることができた。</p> <p>7について 3. 3</p> <p>○ 150周年記念式典に合わせて、鉦踊りや劇、音楽、群読発表など学年に応じた発表に取り組むことができた。</p>		<p>と感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭でのゲーム依存が高いようだ。自分で時間を決めてできるようになってほしい。外国のように踏み込んだ指導も必要ではないか。 ・安全面については、登校時刻や見守りなど、家庭や地域と連携した取組が必要だと思う。 ・ICTを活用した情報共有など、今後の安全対策の充実にも期待したい。 ・日常的な声掛けや見守りの積み重ねが大切だと感じる。 ・多様性を認め合う心や、人間関係の固定化を防ぐ指導も大切だと感じる。 ・一人一人の違いを認め合う雰囲気づくりを大切にしてほしい。 ・150周年記念行事では、児童の発表や地域との交流がとてもよい経験になっていた。 ・地域文化の発表など、今後も地域とつながる活動を大切にしてほしい。鉦踊りは実施できて大変良かった。
---	--	--	---

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な数値目標等及び取組	評価		結果の考察・分析及び改善策等
			学校	関係者	
<p>体育</p>	<p>重点目標</p> <p>○ 自分の身体の状態に関心を持ち、健康の保持増進や体力の向上に進んで取り組む児童の育成</p> <p>手段</p> <p>1 スクールスポーツプランに基づく鍛える体育科指導の実践</p> <p>2 集団行動の基本様式の定着</p> <p>3 体力・運動能力の向上</p> <p>4 感染症や熱中症等予防と対応</p> <p>5 疾病治療の推進（90%以上）</p> <p>6 立腰の徹底</p>	<p>1について 3. 2</p> <p>○ 全職員で課題と対策を共有し、全学年で取り組むことができた。</p> <p>2について 3. 3</p> <p>○ 運動会練習や体育の授業の中で、集団行動の基本様式の定着を図ってきた。日常の廊下歩行、移動教室の場面で指導を継続していく。</p> <p>3について 3. 0</p> <p>○ 持久走月間やなわとび旬間などで集中して体力向上を図るとともに、昼休み時間に児童主体で体力向上の取組を実施できた。早寝早起き、朝ごはんが定着するように家庭への啓発を続けていく。</p> <p>4について 3. 4</p> <p>○ 気温が高い時期は熱中症警戒アラートに従い、体育や昼休みの外遊び時間を制限して、安全に過ごすことができた。年間通して手洗い、うがい、換気をこまめに呼びかけ、感染症対策を図ることができた。</p> <p>5について 3. 5</p> <p>○ 歯科治療については1月現在76%である。年度末まで各家庭に対し、治療への呼びかけを継続していく。肥満傾向児童への個別指導については、保護者の協力を得ながら今後も関係諸機関との連携を継続していく。</p> <p>6について 3. 1</p> <p>○ 立腰についての自己評価は、児童は88.6%、職員は87.5%であった。児童の意識を変える指導をしていく。</p>	<p>3.25</p>	<p>3.63</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業に楽しく取り組んでいる児童が多く、充実していると感じる。 ・外部指導者の活用など、子どもたちにとってよい経験になっていると思う。 ・運動会での集団行動が素晴らしく、日頃の指導の成果が表れている。 ・持久走大会では、最後までやりぬく姿に感動した。 ・運動会の時期については、気候や環境面を考慮して検討が必要ではないかと感じる。 ・近年の暑さを考えると、熱中症対策など安全面の配慮がより重要になると思う。 ・施設面も含めて、安全に活動できる環境づくりを考えていく必要がある。 ・感染症対策については、手洗い・うがいの習慣が身につけてきていると感じる。 ・歯科治療などについては、保護者への働きかけを強めることも必要ではないかと思う。
<p>食育</p>	<p>重点目標</p> <p>○ 食に関心を持ち、望ましい食習慣を実践する児童の育成</p> <p>手段</p> <p>1 食に関する授業実践の充実（学校栄養職員や養護教諭の授業活用）</p> <p>2 家庭・地域と連携した食育指導の推進</p> <p>3 給食の時間の指導の充実（食事のマナーと残食改善）</p> <p>4 「食について考える日」の推進</p>	<p>1について 3. 4</p> <p>○ 参観日に食に関する授業を行い、保護者に対して食への理解と関心を高め、協力体制を作ることができた。</p> <p>2について 3. 5</p> <p>○ 給食日より、学級通信、毎日の給食時の放送を活用して、計画的に食育指導を進めることができた。1月23日に給食感謝集会を実施して、給食に携わる方々や食材に感謝する気持ちや態度を育てた。</p> <p>3について 3. 4</p> <p>○ 各学級、食べられる分を配膳し、余った分はおかわりにするなどの対応をとることをとおして、残食の減少につなげることができた。</p> <p>4について 3. 5</p> <p>○ 夏季休業中に「食について考える日」を設け、コースを選択制で、それぞれの家庭に合った取り組み方で実施することができた。</p>	<p>3.41</p>	<p>3.58</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する授業を通して、子どもも保護者も食への関心が高まっていると感じる。 ・親子で食について考えるよい機会になっている。 ・食に関する話題が家庭で増えていると感じる。 ・日常の食事への意識づけにつながっていると思う。 ・給食指導により残食が減っており、先生方の取組の成果だと思う。 ・給食は子どもにとって楽しみの一つであり、栄養面でも大変ありがたい。 ・食べることの大切さを実感できていると感じる。 ・食事のマナーについても、日常的に身につけてきていると思う。 ・体験活動を通して、食べ物の大切さや作る苦労を実感できてい

	<p>5 米作りや食に関する体験活動（梅ちぎり・芋栽培など）の充実</p> <p>6 個別の相談指導の充実</p> <p>7 朝食指導の充実</p>	<p>5について 3.0 ○ 稲作（田植え～稲刈）、梅ちぎり、いも（苗植え～収穫）と、多くの関係機関、保護者のご協力のもと、実施することができた。</p> <p>6について 3.3 ○ （体育の部、5について参照。）</p> <p>7について 3.8 ○ 朝食については、100%の摂取率を維持している。今後は朝食の内容についても話題を広げ、家庭と協力して取り組んでいきたい。</p>			<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者の協力による活動は、とても恵まれた環境だと感じる。 ・実体験を通じた学びが、子どもの意欲につながっていると思う。 ・地域とのつながりを感じられる取組として意義が大きい。 ・朝食の摂取率100%は素晴らしいが、内容（質）の向上も今後の課題ではないかと思う。 ・忙しい家庭の実情も踏まえた情報発信があるとありがたい。 ・全体として、食育の取組はとても充実しており、今後も継続してほしい。
その他	<p>○ 人材育成・働き方改革について 手段</p> <p>1 授業力向上に向けて一人一人が授業実践を積み重ねると共に、相互授業を実施し、全職員の授業力の向上を図る。</p> <p>2 相互授業参観の日常化と授業研究会の充実。</p> <p>3 職員一人一人のライフステージにおける指標を理解させ、教職員評価制度等を通して、それぞれのキャリアデザインを描かせる。</p> <p>4 明るい職員室の雰囲気作りに努め、職員間の風通しをよくするとともに、月45時間以上残業する職員「0」を目指す。</p> <p>5 ICT活用やペーパーレスによる会議の簡略化と職員同士の連携を強化する。</p> <p>6 業務の平準化と協働体制の強化等による時間外勤務の縮減と、放課後の時間確保に努める。</p> <p>7 統合型校務支援システムを有効活用する。</p>	<p>1・2について</p> <p>○ 1人1回の授業公開を行い、授業力向上に努めたが、相互授業参観の日常化には至っていない。ICTを活用していきたい。</p> <p>3・4について</p> <p>○ 月45時間以上残業する職員は1名（教頭）のみで、職員間の雰囲気も良く、働き方改革が推進されている。職員のキャリアデザインの指導・助言を今後も継続的に行っていく。</p> <p>5・6・7について</p> <p>○ 統合型校務支援システムを効果的に活用し、会議時間の短縮やペーパーレス化、業務効率化につなげることができた。</p>	3.30	3.55	<ul style="list-style-type: none"> ・朝早くから横断歩道に立っていただき、子どもたちの安全確保に尽力されていることに感謝している。 ・修学旅行については、感染症の影響を受けにくい時期の設定も検討できるのではないかと感じた。 ・デジタル化が進む中でも、辞書を引く力など基礎的な学習方法も大切にしてほしい。紙とデジタルの両方を使える力が必要だと思う。 ・先生方がいつも笑顔で子どもたちに接している姿に安心感を覚える。 ・一方で、行事対応や放課後の指導など、教職員の負担が大きいのではないかと心配している。 ・ICTの活用や業務の効率化を進め、先生方の事務的な負担軽減につなげてほしい。 ・保護者や地域としても、学校の取組を理解し、協力していきたいと考えている。 ・地域行事についても、無理のない範囲で精選し、先生方が子どもと向き合う時間を確保できるようにしてほしい。 ・社会の変化が大きい中でも、教育の基本を大切にしながら、今後も学校運営を進めていただきたい。 ・校長先生をはじめ、教職員の皆様の日頃のご尽力に感謝している。

<p>次年度の方向性 についての校長 所見</p>	<p>学校経営ビジョンをもとに、児童の自己肯定感を高めることを意識しながら「栗須小の3つの大切：やりぬくことを大切にする、認め合うことを大切にする、ことばを大切にする」を共通実践化し、『仲間と共に知恵をしばり、思いやりの心をもって、最後までやりぬく児童』の育成を目指し、児童が「安心して登校、楽しく学校生活」を送ることができる学校づくりを行っていく。また、以下の3点については、特に具体的な取組を行う。</p> <p>① 学力の向上と心の教育の充実・・・児童理解の充実を図りながら、指導方法の工夫・改善を行い、学力向上を目指す。</p> <p>② スクールスポーツプランを活かした児童の体力の向上・・・児童の実態を基に作成した「スクールスポーツプラン」を活かしながら、児童が気候に合わせて1年間運動を楽しめるシステムを構築する。</p> <p>③ 人材育成・働き方改革・・・教職員の授業力（指導力）向上と長所発揮をねらったOJTの場を確保するとともに、業務の平準化と協働体制の強化に努め、健康でやりがいをもって能力を発揮できる環境を整備する。</p>
-----------------------------------	---